

肺がん

日本人のがん死亡原因の第1位で、三大がんの一つにも数えられる「肺がん」。喫煙はもちろん、加齢や環境汚染、遺伝子の変異などもリスク要因になるとされています。

「肺がん」って、どんな病気？

死亡率第1位のがん

- 第1位 肺がん
- 第2位 大腸がん
- 第3位 胃がん

(2016年・男女計)

日本人において、がんの中で死亡率がもっとも高いのが肺がん。高齢化にともない、患者さんの数は増加し続けています。

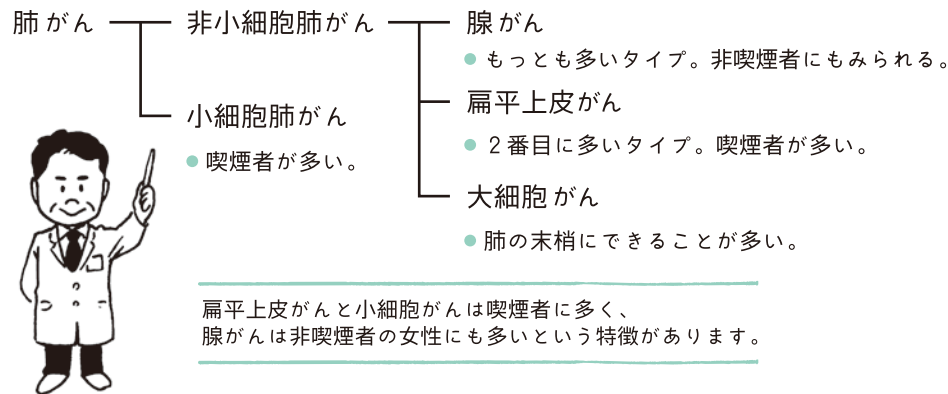
(出典) 国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」日本の最新がん統計まとめ 2017年12月8日時点

たばこはやめましょう



たばこは発症リスクを高めます。たばこが原因と考えられる肺がんは、男性で約7割、女性で約2割にのぼります。

肺がんの分類



たばこを吸わなくても肺がん



非喫煙者の肺がんも増加しています。腺がんは、特定の遺伝子の変異が原因であることも。

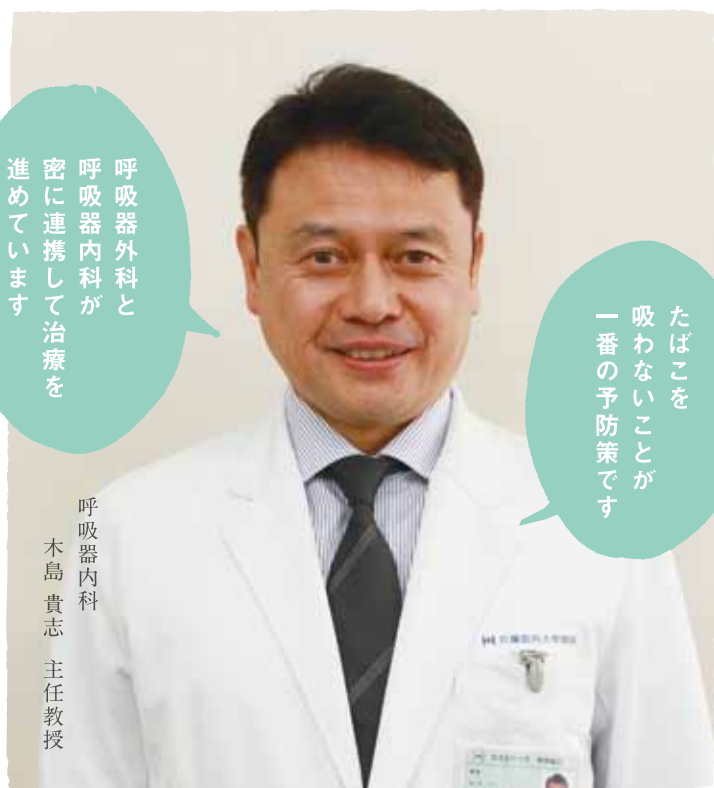
手術は胸腔鏡で行うことが多い



早期であれば手術で治ることも。数カ所の小さな切開で行う、体への負担が少ない胸腔鏡下手術が多く行われています。

地域医療の”最後の砦”だからこそ「患者さん一人ひとりと向き合う肺がん」の治療

がんの種類や進行の度合いなどによって選択肢が異なる肺がんの治療について、2017年4月に呼吸器内科の主任教授に着任した木島先生に話を聞きました。



たばこを吸わないことが一番の予防策です

呼吸器外科と呼吸器内科が密に連携して治療を進めています

呼吸器内科 木島 貴志 主任教授

肺がんの治療方針は、がんの種類(組織や遺伝子のタイプ)や病期(ステージ)のほか、患者さんの体の状態なども考慮して決めていきます。外科手術が第1選択になるのは早期の非小細胞がん、兵庫医科大学病院では、そのほとんどを胸腔鏡下手術によって行っています。手術のほかに、抗がん剤治療や放射線療法という選択肢があり、それらを組み合わせるなどして治療を進めます。長期間の使用が可能な蓄積毒性の少ない抗がん剤や、がん細胞に栄養などが届かないようにする血管新生阻害剤も出てきており、それぞれの患者さんに最適な治療を選んでいます。

さらに、新たな治療法として昨今注目されているのが「免疫療法」です。現在、ニボルマブ(オプジーボ)とペムブロリズマブ(キイトルーダ)という2つの免疫チェックポイント阻害剤が、条件に合致する患者さんに対して保険適用になっていきます。効果が出る割合は約2割と低いものの、非常に高い効果が認められる患者さんもいらっしゃいます。従来の抗がん剤や分子標的治療薬とは異なった副作用が出るため、消化器や神経、内分泌代謝など、他の診療科とも連携して対策を進めていきたいと考えています。

▶▶▶ 2018年1月17日(水) 当院にて開催予定の「市民健康講座」で講演します。P.10をご覧ください。